

学校づくりリーダーのためのアクティブラーナーズサミット2018

**「学校教育改革に向かう高等学校における思考力・判断力・表現力を育成するための指導方法の工夫改善」**

大分県立大分豊府高等学校  
教 頭 佐藤 茂

- 1 本校の概要
- 2 思考力・判断力・表現力の育成  
を図る本校の取組
- 3 学力の3要素をベースとした資  
質・能力の育成

# 1 本校の概要

## 1-1 学校紹介



## 1-2 大分豊府高校学力向上施策

### 学業と部活動の両立 【特別活動領域】

NO部活動DAY・試験前休止の徹底、指導計画作成・部活動経営計画（作成中）

### 学ぶ意欲の向上 【進路指導・特別活動領域】

総合的な学習の再構築  
生徒用進路シラバス

### 豊府チャレンジ プロジェクト

HCC（豊府チャレンジキャンプ）を進化させ、HCPへ  
特別活動も含めた教科外の活動を一本化し6年間・3年間の継続性を高める

### 学習を中心とした 基本的な生活習慣の確立 （マナー・モラルの確立） 【生徒指導領域・学年】

### 主体的な学び 自学力の育成 【教務領域・学年】

## 世界標準の 学力向上

思考力・判断力・表現力を育成するための指導方法の工夫改善に係る実践研究 H26年度～H28年度

### 基礎基本の徹底 活用力の育成 （授業力向上） 【教務領域・教科統括】

中高6年間を見通して「思考力・判断力・表現力」を評価するテストの開発研究 H29年度～H32年度

### アセスメントテスト開発 （評価法） 【教務領域・教科統括】

### グレード別指導 【進路指導領域】

羅針盤プロジェクト（学習支援計画）  
H26より中学6期生（高校30期）で開始

## 2 思考力・判断力・表現力の育成を図る本校の取組

### 2-1 本校は思考力・判断力・表現力を育成する授業になっていたか？

#### ① 従来型の講義中心的授業形態

生徒の主体的な活動 言語活動の充実  
関心・意欲を高め、いきいきと学習する生徒へ

#### ② 評価規準が不明確

評価規準の明確化 指導の統一性  
授業の目標達成到達度の精度を高める

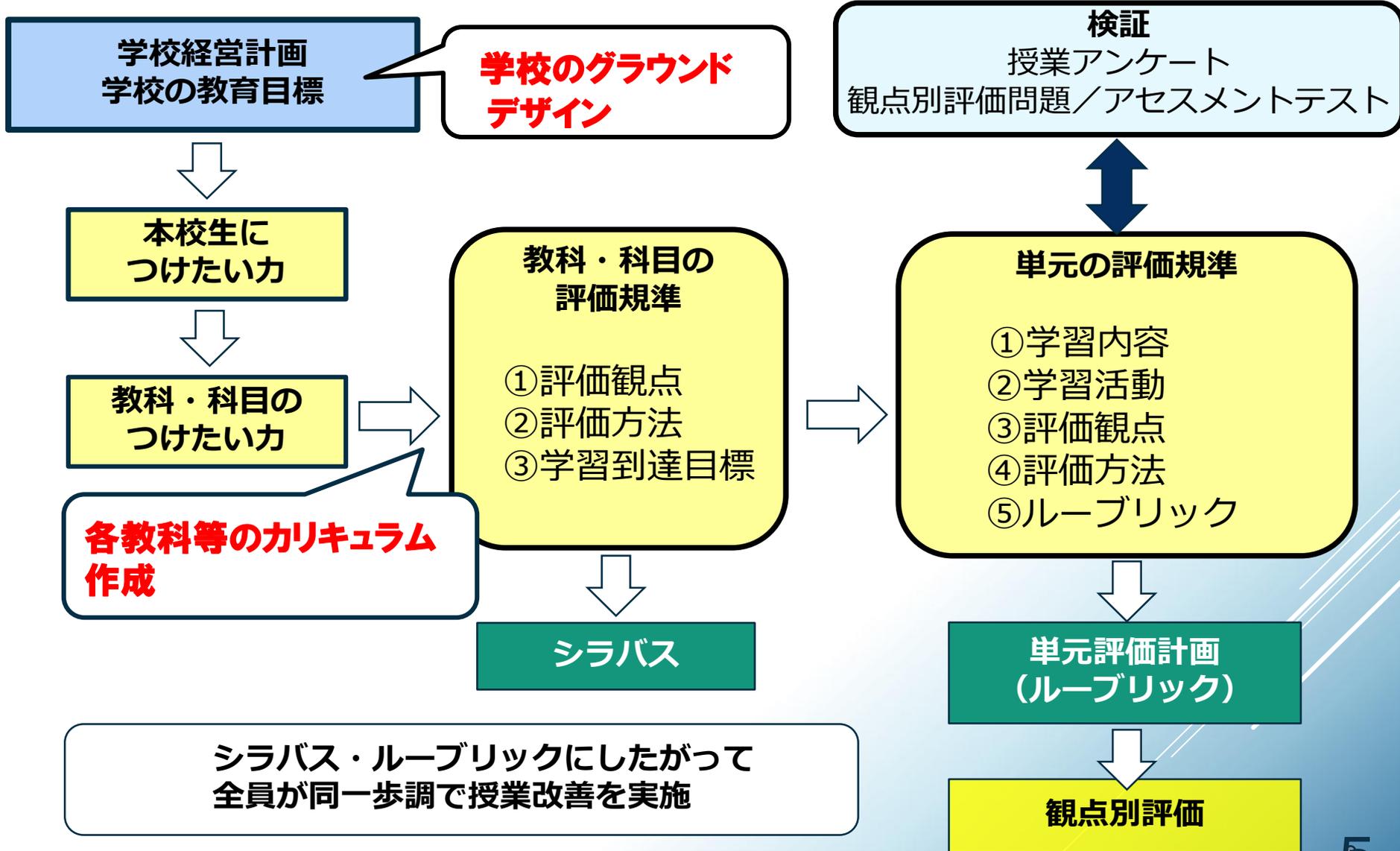
#### ③ 観点別学習状況の評価が不十分

観点別に、つきたい力の育成に対する評価

#### ④ 中高の接続が不十分

中高でのつきたい力と到達目標の共有

## 2-2 資質・能力を育むカリキュラム・マネジメント



## 2-3 研究計画

H26年度  
1年目

職員の意識改革 → つけたい力の議論

職員の学習 → 研究授業・校内研修

シラバス（全学年・全教科・科目完成）

ルーブリック（全学年・全教科・科目1学期分完成）

観点別考査問題の試行

H27年度  
2年目

ルーブリック（全学年・全教科・科目完成）

→ 評価規準・評価方法等に基づく授業

→ 観点別評価の完全実施及び検証

観点別考査問題の完全実施及び検証

合科目問題の作成開始

つけたい力の修正

研究授業  
全員2回／3年

H28年度  
3年目

ルーブリック完全版（全学年・全教科・科目完成）

→ 評価規準・評価方法等に基づく授業

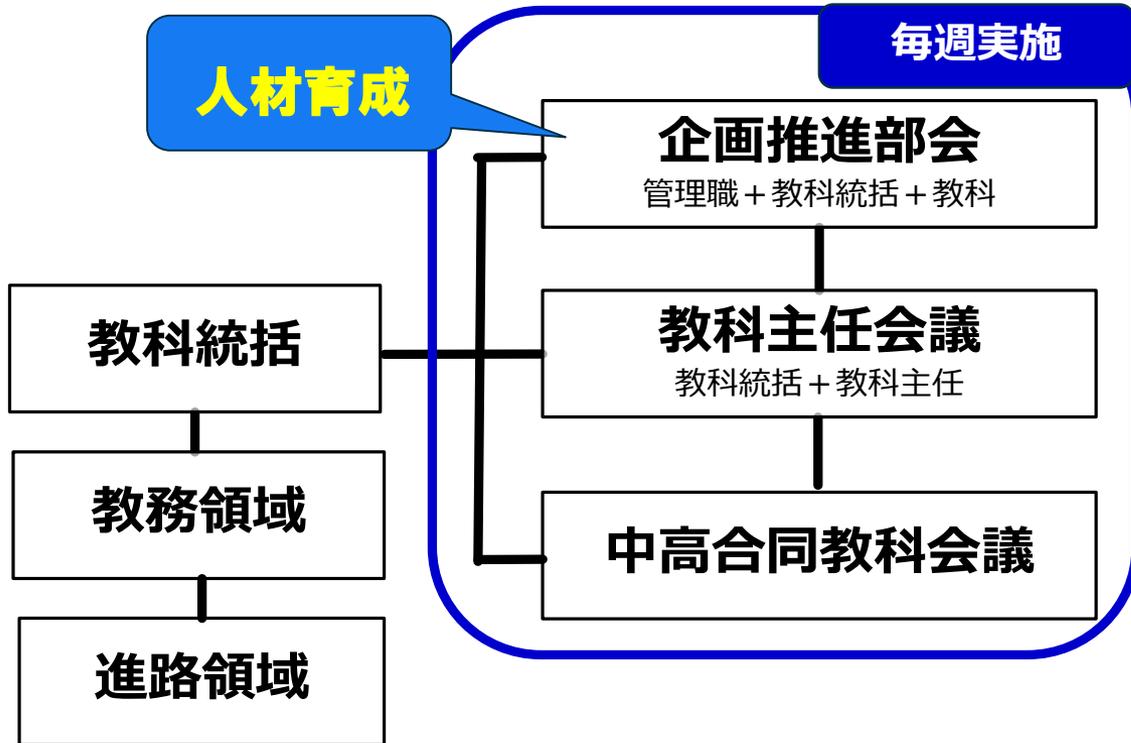
→ 観点別評価の完全実施及び検証

観点別考査問題の完全実施及び検証

合教科・総合問題の作成開始

つけたい力の完全版完成

## 2-4 授業改善研究組織 「チーム学校」として取り組む



**全教科で取り組む  
他教科の取組を知る**

- ① 授業改善に向けての**組織力の強化**
- ② **持続可能**  
計画的な研修会・学習会の実施
- ③ **生徒につけたい力**（21世紀型学力）の**共有化**

授業計画 ↔ 授業 ↔ 評価（指導と評価の一体化）

**チーム学校として取り組む**

**21世紀型学力**

← 『5教科のみならず**すべての教科を活用**する力』

## 2-5 生徒につけたい力は？

教科主任



KJ法による「つけたい力」の絞込

企画推進委員



つけたい力のモデル化

大分豊府高校生につけたい力

- ◆多面的・発展的に考え行動する力
- ◆目的や場に応じて適切に表現する力

思考力・判断力・表現力

関心・意欲・態度

- ◆主体的に考察する力
- ◆意欲的に探究する力
- ◆他者の考えを受容する力
- ◆考えを深化させようとする力

知識・理解

- ◆知識・技能を関連付け・体系化する力
- ◆必要な知識・情報を選択する力

## 2-6 平成26年度 企画推進部会の議題

第1回	6月9日	研究開発のねらいや方向性の確認
第2回	6月16日	年次研究計画 校内研修計画 研究授業計画
第3回	6月23日	大分豊府高校生につけたい力の検討
第4回	6月30日	各年度の研究の重点化 大分豊府高校生につけたい力のモデル検討
第5回	7月7日	研究内容の共有化 大分豊府高校生につけたい力のモデル検討
第6回	7月14日	先進校視察の検討 大分豊府高校生につけたい力のモデル検討
第7回	7月22日	つけたい力をもとに、各教科でつけたい力の検討
第8回	8月25日	つけたい力と各教科でつけたい力の関連性
第9回	9月1日	第1回研修会 指導案モデル検討
第10回	9月16日	第1回研修会 第2回研修会 つけたい力と各教科でつけたい力の関連性
第11回	10月29日	第3回研修会 第4回研修会 単元評価計画モデル検討
第12回	11月5日	第4回研修会 教科でつけたい力と各科目でつけたい力の関連性
第13回	11月11日	第3回研修会 指導案審議
第14回	11月17日	第3回研修会 第4回研修会 指導案審議
第15回	12月2日	先進校視察還流報告 第4回研修会
第16回	12月8日	第4回研修会 第1回運営指導委員会 指導案修正
第17回	12月15日	第4回研修会 第1回運営指導委員会



## 2-7 大分豊府高校生生徒につけたい力

学校教育法第30条  
『学力の3要素』  
がベース

関心・意欲・態度	思考力・判断力・表現力	知識・理解
<p><b>事象への関心</b></p> <p>社会や文化をはじめ、様々な事象への関心を高め、主体的に考察しようとする態度を身に付ける。</p>	<p><b>思考力</b></p> <p>問題解決において、想像したり、言語や情報、知識や技能、課題探究の技法を活用したりし、多面的・発展的に考え行動する。</p>	<p><b>概念・法則</b></p> <p>基礎的・基本的な知識・技能・概念が定着する。</p>
<p><b>豊かな感受性</b></p> <p>豊かな感受性を育み、他者の考えに共感しようとする態度を身に付ける。</p>	<p><b>判断力</b></p> <p>多様なものの見方・考え方を知り、自分の考えや意見を整理し、他者の主張を適正に判断する。</p>	<p><b>体系</b></p> <p>基礎的・基本的な知識を関連させ体系化し、総合的に理解する。</p>
<p><b>考えを深化</b></p> <p>発見した課題に対して、自分の考えを深化させ、発展させようとする態度を身に付ける。</p>	<p><b>表現力</b></p> <p>根拠をもって考察した内容を、他者が理解できるように、目的や場に応じて適切に表現する。</p>	<p><b>活用</b></p> <p>総合的に理解した知識の中から必要なものを選択し、活用する。</p>

# 2-8 授業計画作成の共有

## 単元評価計画【生物基礎】

単元	第3編 生物の体内環境の調節
----	----------------

## 単元評価計画とルーブリック【様式】 記入例

# シラバスと 単元評価計画の作成

について関心を持ち、意欲的に探究しようとするともに科学的な見方や考え方を身につけている。  
中に問題を見いだし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。  
について観察・実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの結果や過程を的確に記録整理し、科学的に探究する技能を身につけている。  
について、基本的な概念や原理を理解し、知識を身につけている。

評価の観点				評価	
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	評価規準	評価方法

考查で評価する場合や、講義形式の授業の場合、ルーブリックを必要なし。

### ルーブリック

評価基準は、3～5段階とし、教科の科目内で統一する。

## 平成27年度 シラバス(年間の指導と評価の計画)

大分県立大分豊府高等学校					
教科 科目	地理歴史科 地理B	履修学年	2年	単位数	3単位
使用教科書	新詳地理B(帝国書院)	補助教材	最新地理図表GEO(第一学習社)		

### 年度末評定の基準

- 5 目標に対し、十分に満足できると判断されるものうち、特に程度の高いもの
- 4 目標に対し、十分に満足できると判断されるもの
- 3 目標に対し、概ね満足できると判断されるもの
- 2 目標に対し、努力を要すると判断されるもの
- 1 単位認定不可

科目の目標	現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。
-------	--

実験活動や言語活動等において、ルーブリックが必要であると思われるもののみ作成する。  
ルーブリック作成は、大単元に2つ程度作成する。

### 評価総括表

評価観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価規準	歴史的・地理的事象に対する関心と課題意識を高め、意欲的に探究するとともに、国際社会に主体的に生きる国家・社会の一員としての責任を果たそうとする。	地理的事象から課題を見いだし、地域的特色を世界的視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、公正に判断して、追究し考察した過程を適切に表現している。	諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活文化の地域的特色についての基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。
各観点の授業内評価方法等	課題の提出状況 授業中のワークシートへの取り組み	考查(思考・判断・表現の問題) 授業中のグループワークの評価 グループワーク時のワークシートの評価	考查(グラフの読み取り問題など) ワークシートの評価	考查
学期末の各観点比率(%)	20%	40%	20%	20%

的確なグラフで表現し、創意工夫がみられる。  
的確なグラフで表現している。  
グラフで表現しているが、不備がみられる。  
グラフを作成できない。

考察に関して横断とともに説明ができ、レポートの各項目において改善がみられる。  
について説明ができ、レポートの各項目について改善がみられる。  
について説明ができ、レポートの項目の半数において改善がみられる。  
レポートの改善がみられない。

### 指導計画

月	単元	時数	学習内容	評価の観点および観点に応じた学習到達目標
4	様々な地図と地理的技能	2	地図の種類とその利用(地図投影法)	関心・意欲・態度 地図の活用と地域調査に関して、意欲的に探究し、捉えようとしている。
		2	時差・地理情報の地図化	思考・判断・表現 地図の活用と地域調査に関して、生活圏の地域的特色と地域調査の方法を多面的に考察しその結果や過程を適切に表現している。
		2	統計地図	技能 地図の活用と地域調査に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったりまとめたりしている。
		4	地図の活用と地域調査(地形図の読図の基礎)	知識・理解 地図の活用と地域調査に関して、生活圏の地域的特色と地域調査の方法などを理解し、その知識を身に付けている。

**評価観点比率を明らかにし、生徒にシラバスを提示**

# 単元評価計画【生物】

単元	第2編 生殖と発生
単元の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・減数分裂の際に染色体の乗換えによって遺伝子の組換えが起き、また受精により多様な遺伝的組合せが生ずることを理解している。</li> <li>・動物の配偶子形成と受精の過程について理解している。</li> <li>・胚の前後軸の決定に卵の細胞質における不均一性が関与していることを理解している。</li> <li>・細胞分化や形態形成にかかわる代表的な遺伝子として、アンテナペディア遺伝子、ホメオティック遺伝子について理解している。</li> <li>・植物の配偶子形成と受精及び胚発生の過程について理解している。</li> <li>・花の形態形成における遺伝子の働きとして、ABCモデルについて理解している。</li> </ul>

知識・理解を定期考査で見取る場合には、ルーブリックは記入していない。また、評価する場面を欲張って作りすぎないことが重要。

学習内容	学習活動	時数	評価の観点				評価規準	評価方法	ルーブリック
			関心 意欲 態度	思考 判断 表現	技能	知識 理解			
植物の発生	・被子植物の配偶子形成と受精について知る。	1				◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・以下の内容について知識が定着している。</li> <li>◎ 配偶子の形成過程と各細胞の名称、重複受精から種子形成の過程と各部位の名称</li> </ul>	定期考査	
	【実験】 花粉管の伸長の観察	1	○			◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・花粉管が伸長する様子をイメージしながら興味関心をもって、実験に取り組んでいる。</li> <li>・花粉管内にある精細胞を適切にスケッチしている。</li> </ul>	実験レポート	<ul style="list-style-type: none"> <li>A 実験に意欲的に取り組み、適正にスケッチできている。</li> <li>B 実験に意欲的に取り組み、スケッチが適正でない。</li> <li>C 実験への取り組みが意欲的でなく、スケッチも適正でない。</li> </ul>
	【思考学習】 花粉管の誘引に関する実験問題を考察する。	1				◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・花粉管の伸長に関わる要因を考え、論述することができる。</li> </ul>	授業プリント	<ul style="list-style-type: none"> <li>A 考査で、助細胞による誘引を適切に論述している。</li> <li>B 助細胞による誘引を論述している。</li> </ul>

実験レポートで見取りを行い、技能の評価に算入している。各教科で、どのような見取りの方法があるか、どの観点に算入するかななどを議論した。

## 2-9 目標に準拠した評価

		1	2	3
評価物タイトル		考查	レポート	パフォーマンス
氏名	配点	40	8	15
豊府太郎		33	6	12
豊府花子		20	6	15

1学期						
評価比率%	20	40	20	20	100	
氏名	関心 意欲 態度	思考 判断 表現	技能	知識 理解	1学期 評点	1学期 評定
豊府太郎	87	81.25	92.857	100	88	5
豊府花子	80	54.167	96.429	76.667	72	4

1学期				
氏名	関心 意欲 態度	思考 判断 表現	技能	知識 理解
豊府太郎	A	A	A	A
豊府花子	A	B	A	B

大分豊府高等学校

年 7 組 番 氏名

5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
日	日	地	地	数	数	数	物	化	化	生	生	体	保	C	英語表現 II
本	本	理	理	学	学	学	理	学	学	物	物	育	健	英語	英語表現 II
史	史	A	B	II	III	B	理	基礎	学	基礎	物	育	健	II	II
		A	A	A	A	A		B		A	A	B	A	A	A
		B	B	B	A	B	C	B		C	C	B	A	A	A
				B	A	B	B	A		A	B		B	A	A
		B	B	B	B	C	B	B		B	B	B	B	B	B

1 学期 評価	関心・意欲・態度	B	B	A	B	A	B	A	B	II	III	B	理	基礎	学	基礎	物	育	健	II	II	
	思考・判断・表現	A	A		A			A	A	A		A		B			A	A	B	A	A	A
	技能	B	B		B			A	B	C		B				C	C	B	A	A	A	A
	知識・理解				B			A	B	B		A				A	B		B	A	A	A

## 2-10 次期学習指導要領からみえてくるものは

### 教科を超えた知識の関連付けをする指導 2009年PISA調査

新しい情報をほかの教科で得た知識と関連付けようとする。

		ほとんど しない	たまに する	よくする	ほとんど いつもする
日本	割合 (%)	29.9	40.4	22.1	7.4
	平均得点	493	521	544	560
韓国	割合 (%)	12.3	33.4	37.4	16.5
	平均得点	488	521	558	577
OECD平均	割合 (%)	13.5	35.5	33.4	16.7
	平均得点	473	487	502	520
フィンランド	割合 (%)	13.3	43.2	33.1	9.6
	平均得点	516	527	546	571
上海	割合 (%)	7.2	49.9	32.5	10.2
	平均得点	524	551	565	577
ニュージーランド	割合 (%)	10.8	38.0	35.8	14.3
	平均得点	503	510	528	561
アメリカ	割合 (%)	14.9	34.2	32.8	16.7
	平均得点	480	492	507	526

平均得点は「読解力」

## 第4章 学習指導要領等の枠組みの改善と「社会に開かれた教育課程」

### 2. 学習指導要領等の改善の方向性

(1) 学習指導要領等の枠組みの見直し

(「学びの地図」としての枠組みづくりと、各学校における創意工夫の活性化)

・ 新しい学習指導要領等に向けては、以下の6点に沿って枠組みを考えていくことが必要となる。

①「何ができるようになるか」(育成を目指す資質・能力)

②「何を学ぶか」

(教科等を学ぶ意義と、教科等間・学校段階間のつながりを踏まえた教育課程の編成)

③「どのように学ぶか」

(各教科等の指導計画の作成と実施、学習・指導の改善・充実)

④「子供一人一人の発達をどのように支援するか」(子供の発達を踏まえた指導)

⑤「何が身に付いたか」(学習評価の充実)

⑥「実施するために何が必要か」

(学習指導要領等の理念を実現するために必要な方策)

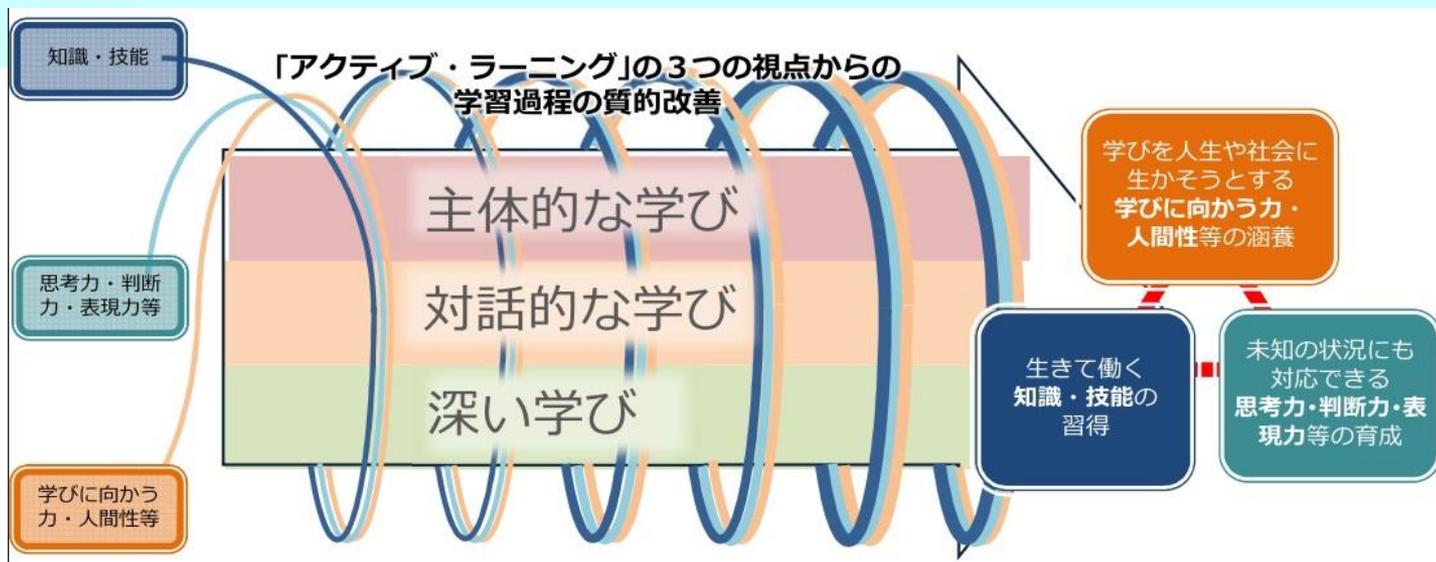
# 第4章 学習指導要領等の枠組みの改善と「社会に開かれた教育課程」

## 2. 学習指導要領等の改善の方向性

(2)教育課程を軸に学校教育の改善・充実の好循環を生み出す「カリキュラム・マネジメント」の実現

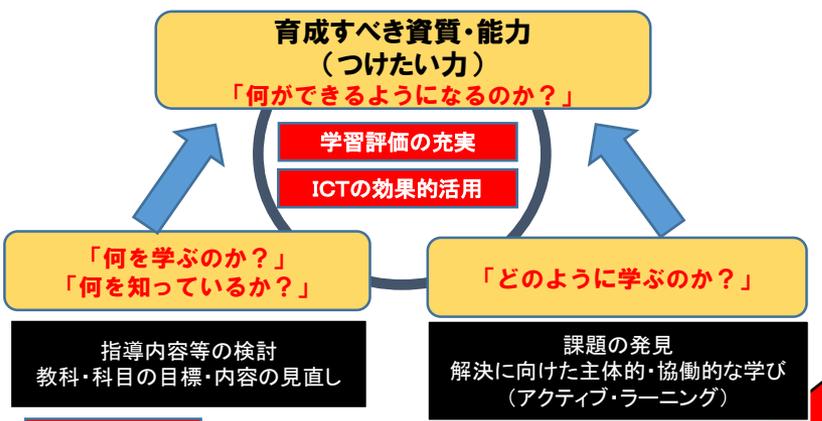
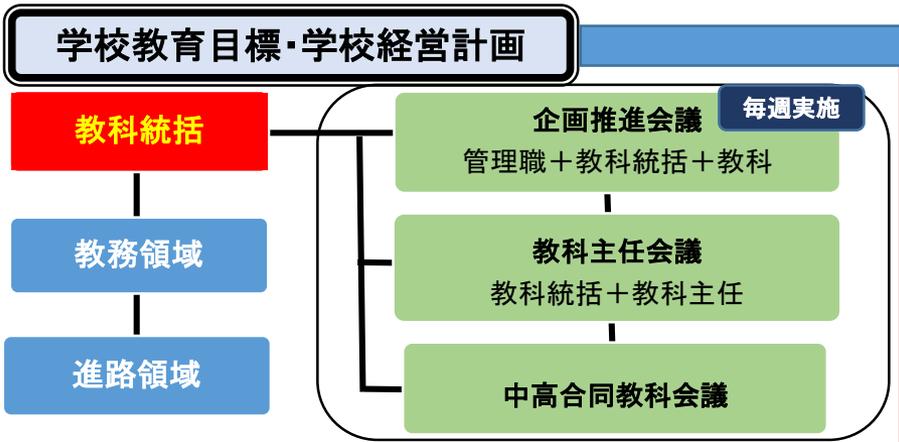
・「社会に開かれた教育課程」の理念のもと、子供たちに資質・能力を育んでいくためには、前項(1)①～⑥に関わる事項を各学校が組み立て、家庭・地域と連携・協働しながら実施し、目の前の子供たちの姿を踏まえながら不断の見直しを図ることが求められる。こうした「カリキュラム・マネジメント」は、以下の三つの側面から捉えることができる。

① 各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、**学校教育目標を踏まえた教科等横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していくこと。** ※②③は略



# 2-12 カリキュラムモデルの作成

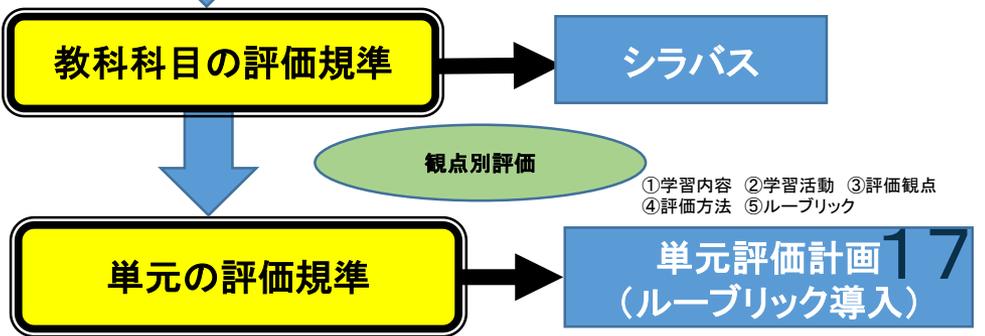
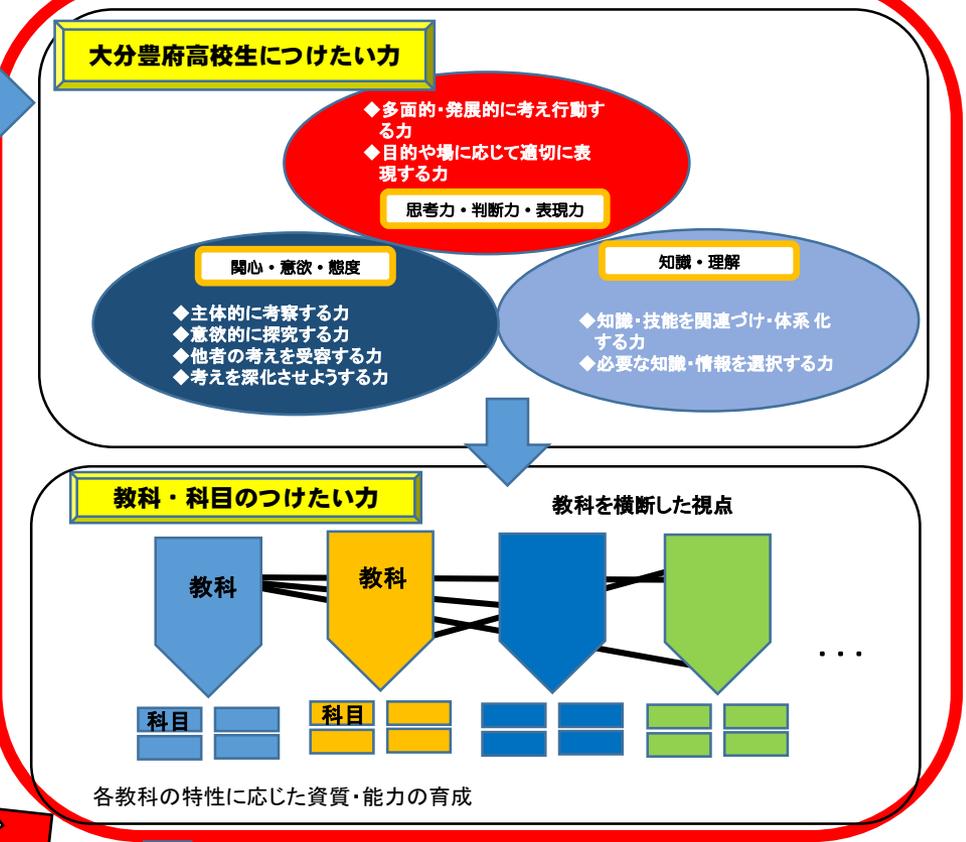
## 資質・能力の育成に向けたカリキュラムモデル



**検証**

- 授業アンケート
- 言語活動アンケート
- 観点別評価問題
- JET TEST I型
- JET TEST II型

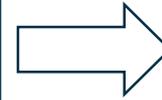
※JET TESTとは、ability to Think(思考力)＋Judgement(判断力)＋Expression(表現力)と表すこととし、JET I型(思考力・判断力・表現力特化型テスト)とJET II型(合教科型テスト)の作成を行っている。



## 2-13 どのような授業が思考力・判断力・表現力を育成するのか？



知識伝達型の授業  
(チョーク&トーク)



考えさせる授業  
双方向の授業

発問  
アクティブラーニング  
言語活動  
ICT 等



- ① 「何を教えるか？」という知識の質や量の改善
- ② 「どのように学ぶか？」という学びの質や深まりの重視



教科のねらい・つけたい力

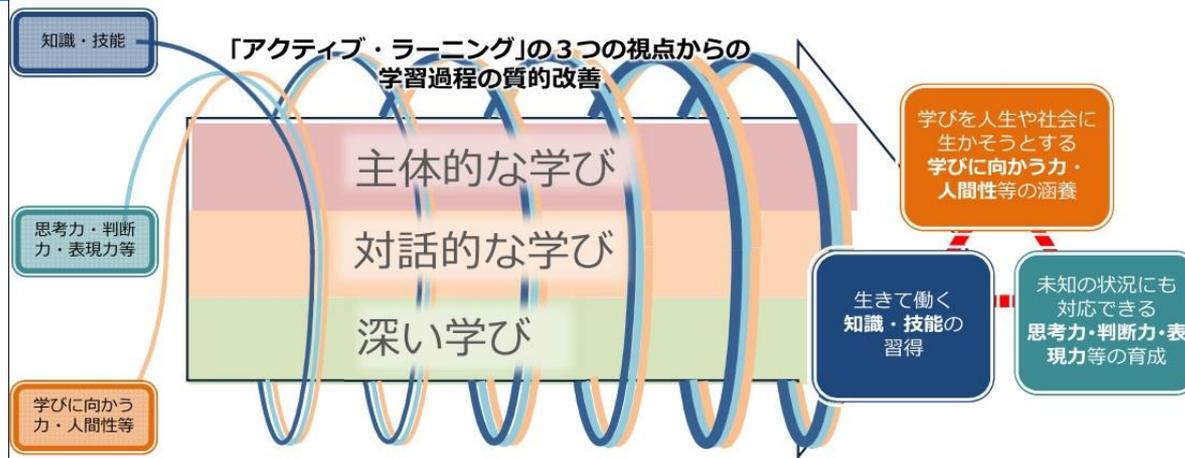


授業が、獲得して欲しい内容についての  
学び合いや話し合いになっているか？

授業の転換

従来の授業イメージを  
ひっくり返す

## 2-14 主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)!



### 安心して学びあえる教室環境づくり

#### ペアワーク・グループワークの原則

目標：互いに考えを伝え合い自分の考えを深めよう。

深く学ぶために：

- 1 根拠を明確にして、説明しよう。
- 2 丁寧なことば遣いで話し、温かな態度（頷き・相づち）で聞こう。

ルール：関係ない話をしない

## アクティブ・ラーニングの目的

- ① 意欲・関心の喚起
- ② 知識・技能の修得
- ③ 表現力の向上
- ④ 思考・判断力の向上

## アクティブ・ラーニングの手法

① ペア活動

② Think-Pair-Share

自分→他と意見交換→全体

③ ジグソー法

④ ラウンドロビン

グループで順に意見を述べる

⑤ ピアインストラクション

仲間同士で教え合う

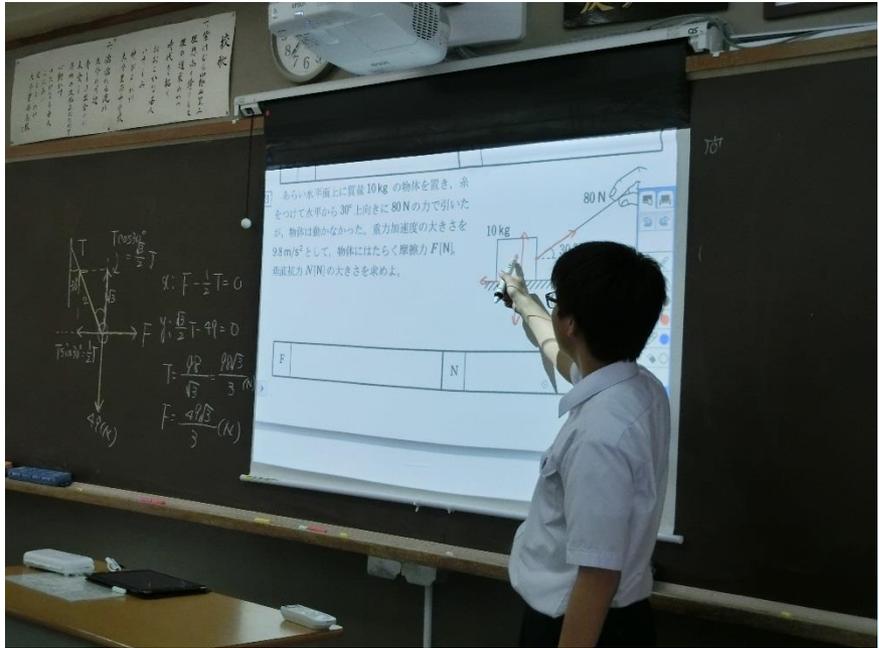
⑥ 反転授業

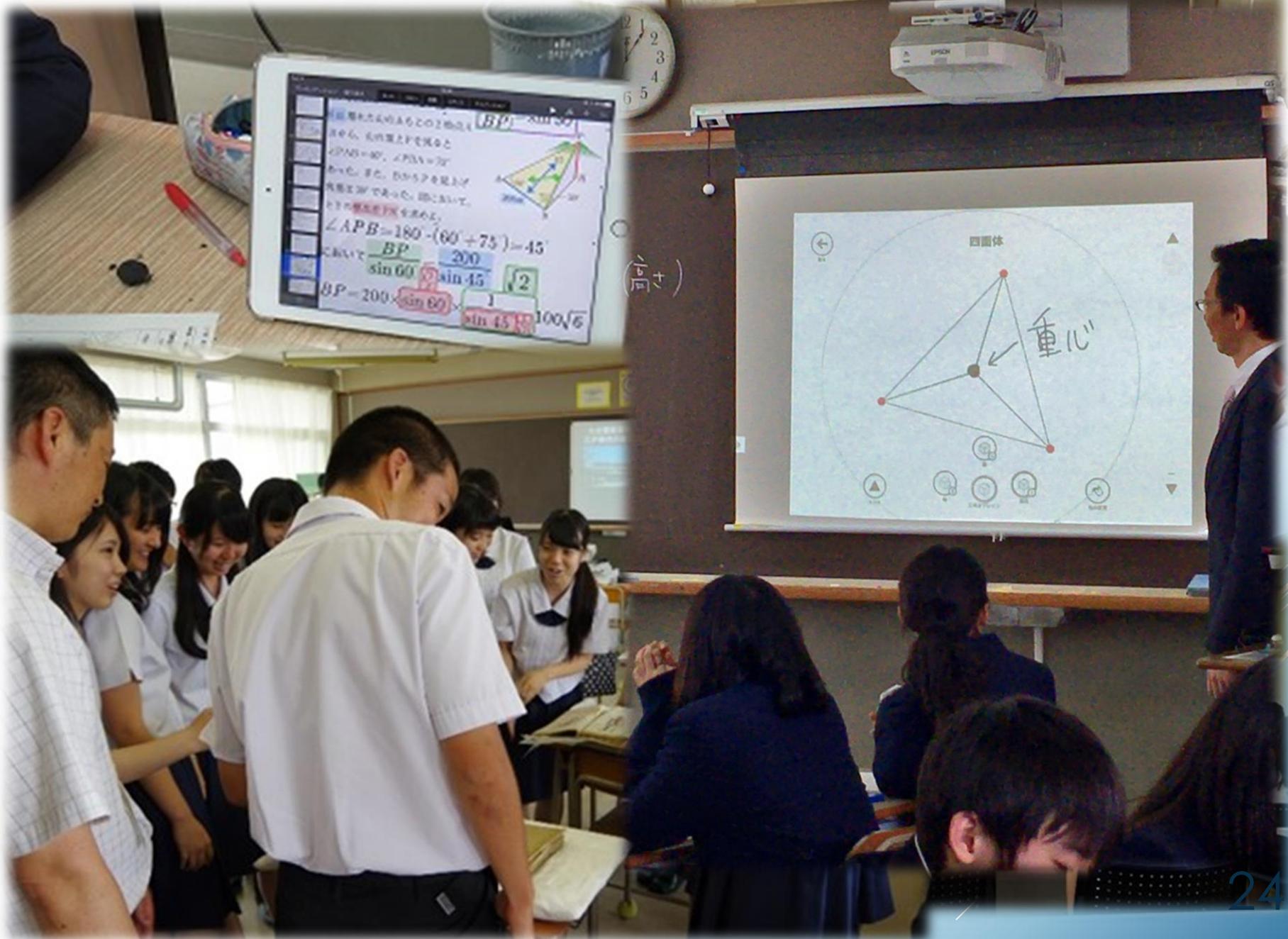
「活動あって学びなし」の批判

課題

- ①思考力育成を目的としていないAL
- ②指導内容がALに適していない
- ③指導内容に適したALを行っていない
- ④教員の指導力不足

# 2-18 本校の学習活動の様子





# 3 学力の3要素をベースとした資質・能力の育成

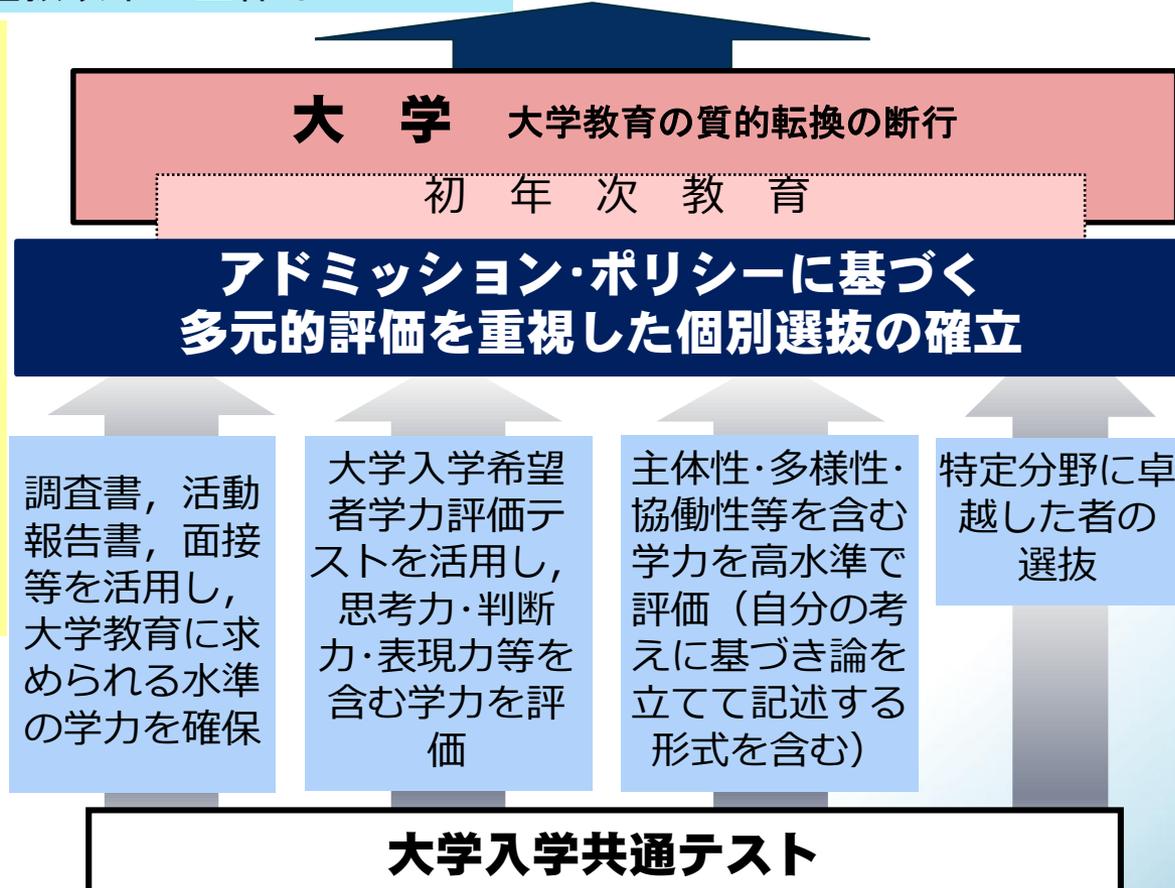
## 3-1 初等中等教育から大学教育までの高大接続改革

大学入学者選抜改革の全体イメージ

社会への送り出し(学校教育の入口から出口まで一貫して社会との関係を重視)

選抜性の高低にかかわらず、学力については、アドミッション・ポリシーに基づき、学力の3要素\*を踏まえた総合的な評価を行うことが重要。特に改革が必要な点は右記の通り。

\* 知識・技能、  
思考力・判断力・表現力、  
主体性・多様性・協働性

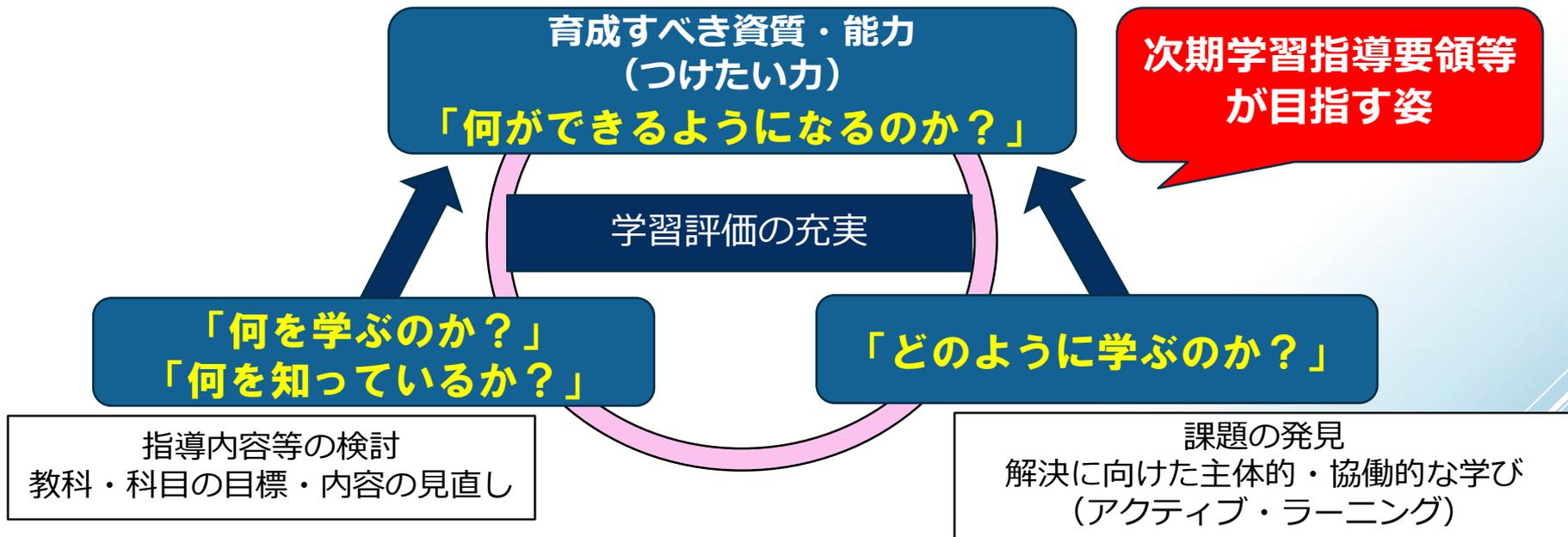


専門学校等  
就職等

「生きる力」  
「確かな学力」を確実に育成

## 3-2 新しい時代に必要となる資質・能力の育成

義務教育を終える段階で身につけておくべき力は？  
18才段階で身につけておくべき力は？



### 資質・能力の3つの柱

- ① 「個別の知識・技能」・・・何を知っているか？何ができるのか？
- ② 「思考力・判断力・表現力等」・・・知っていること、できることをどう使うか？
- ③ 「学びに向かう力・人間性」・・・どのように社会・世界と関わりよりよい人生を送るか？

### 3-3 新たなテストで評価される力

#### ●京都大学 特色入試 教育学部 課題

子どもの遊び（遊具と怪我のリスク）に関する写真・図表を含む、日本語、英語の資料5点を用い、与えられた文章で論じられた主張について評価・検証する。

**複数の資料を組み合わせる  
批判的に思考する  
検証する 論理的に説明する**

#### ●京都大学 特色入試 総合人間学部 文系総合問題

幸福度に関する三つの調査結果からどのような仮説が導き出せるか、仮説を検証するにはどのようなデータが必要か、そのデータを入手するにはどのような調査が必要か論じる。

**仮説を導く  
複数の資料を組み合わせる  
検証する 論理的に説明する**

### 3-4 解を限定しない指導の工夫

#### これまで

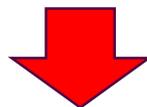
個人が知識を正確に身に付けること  
与えられた課題を効率よく解くこと、などを中心にしがち。



ゴールが決まっており、どのようにそこに効率よく到達させるかという視点で、授業をデザインしがちであった。

#### これから

解のない21世紀の社会 ⇒ 「一時的に詰め込んで、その後すぐに忘れてしまうような知識」の習得ではなく、「後から必要に応じて活用できる知識・技能」の獲得が求められる。



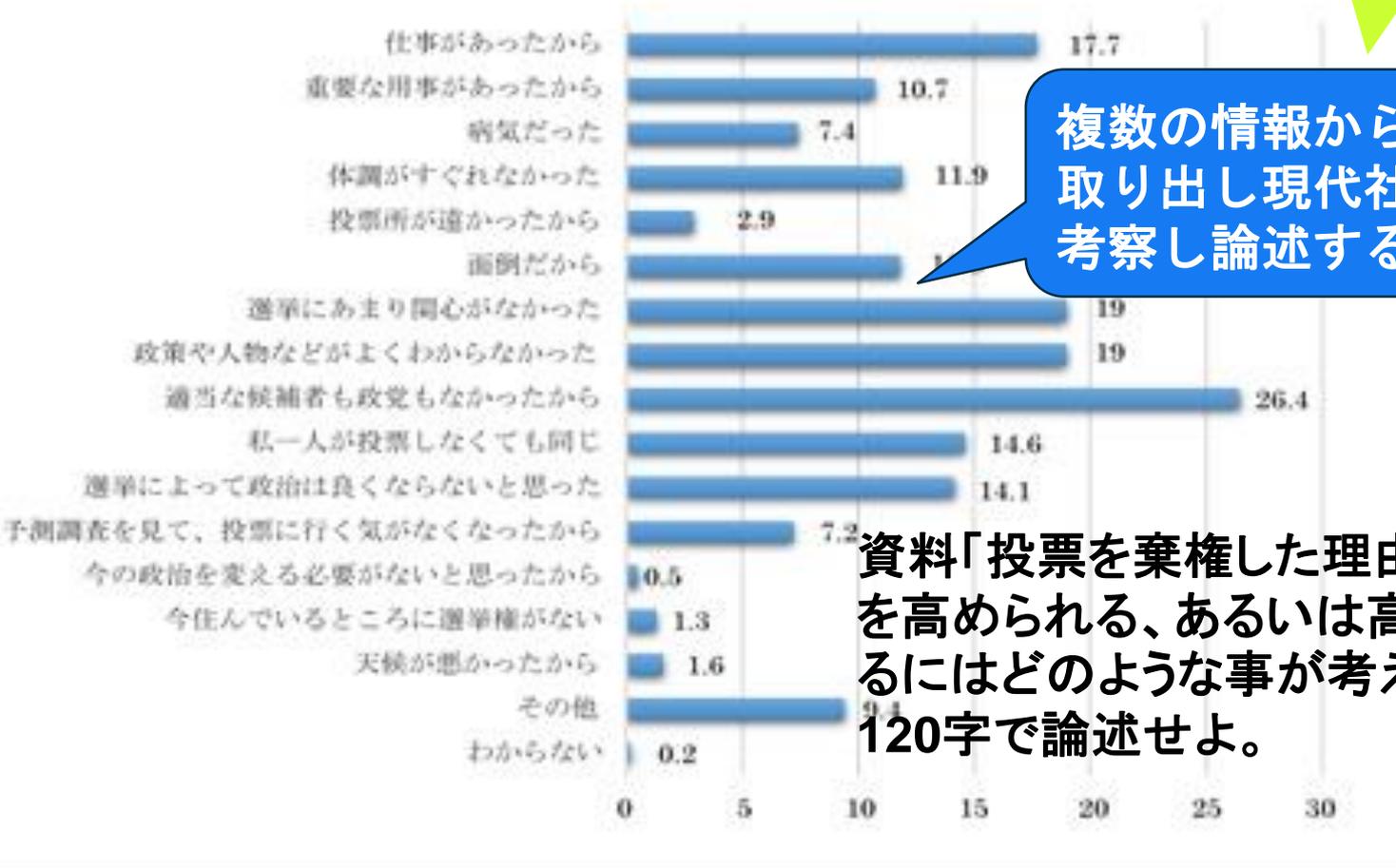
決まった答えを教員が教えるのではなく、例えばペアやグループ、さらにグループ相互でコミュニケーションしながら考えを深め、生徒がそれぞれの答えを見付けたり、同時に課題を発見したりして、知を再構築していくプロセスが大切。28

試験の点数などという他律的な学習動機ではなく

「学ぶことが楽しい」「将来の仕事や生活に生かす」などという自律的な学習動機による学習になるような授業をデザイン。

### 3-5 思考力・判断力・表現力を見取る評価問題

#### 投票を棄権した理由



評価問題の変化

複数の情報から必要な情報を取り出し現代社会の視点から考察し論述する。

資料「投票を棄権した理由」から、投票率を高められる、あるいは高める事につながるにはどのような事が考えるか80字～120字で論述せよ。

明るい選挙推進協議会の抽出調査による単純分布の数値

【3】 下に示すイラストの左側の男性をX、右側の女性をYとして、2人の中の会話を自由に想像し、英語で書きなさい。分量は全体で50語程度とする。どちらが話しているか分かるように、下記のように記せ。XとYのどちらからはじめてもよいし、それぞれ何語発言してもよい。



英語では写真から会話を推測する正解のない問題をつくった。

## 3-6 評価問題のルーブリック

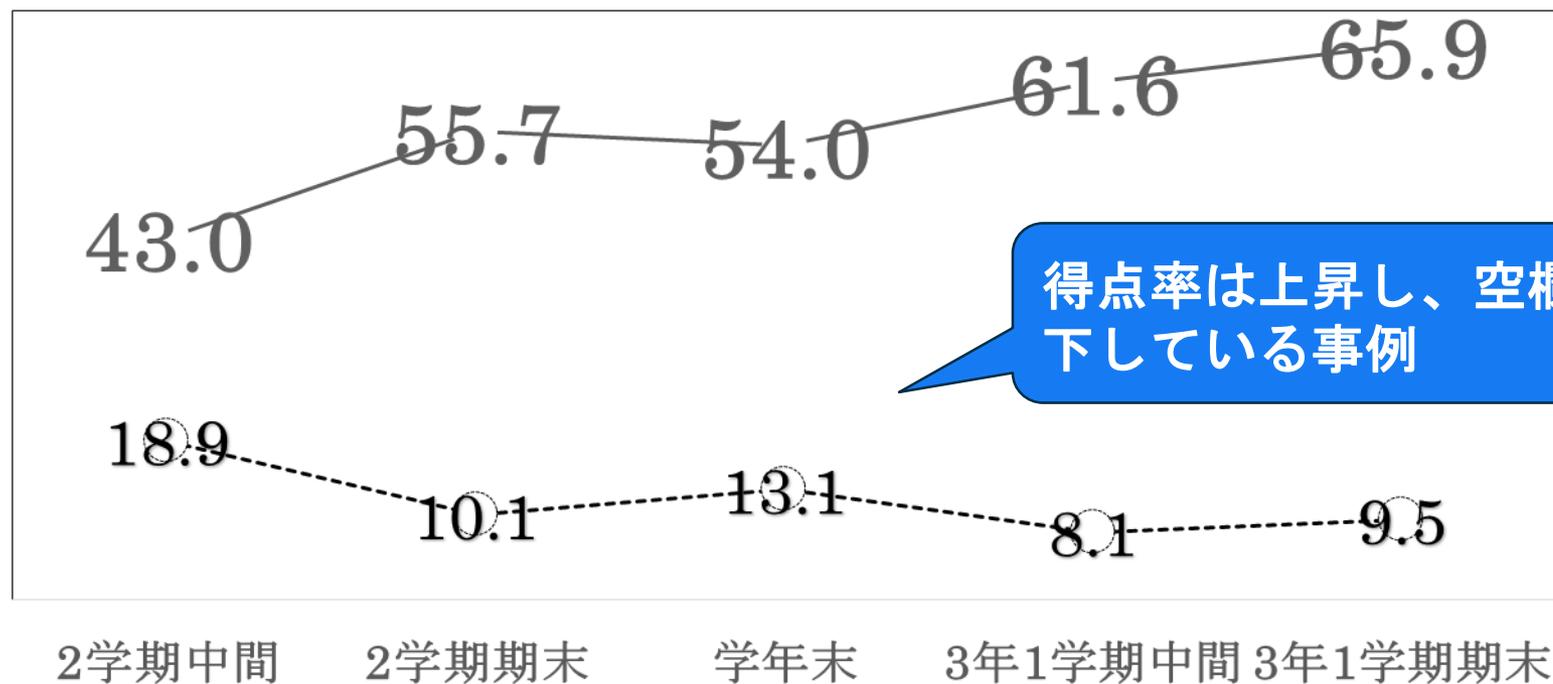
### 国語科の詳細な採点基準表 (ルーブリック)

【JET1型 採点基準表】

	基準	評価	基準	評価						
問一	「しのぶのみだれ」が「信夫闇の乱れ 模様のように心がみだれている」こと に言及できており、上の句下の句の繋 がりもよい。	A	恋のために「乱れている心」に気づき、掛 詞の意識はもっているが、Aほど十分 に表現できていない。	B	ただ「心が乱れている」のみを 表現している。	C	C未満 空欄 事実誤認	D		
問二	男の行動の <b>経緯(恋愛の意識)</b> をふま え、姉妹をみかけると心のままにすば やく和歌を贈る行動をとれたことが 表現できている。	A	A未満C以上ですぐに和歌を贈ったすば やく行動が表現できている。	B	恋愛感情で歌を贈ったことはわかってい るが「すばやく」が表現できていない。	C	C未満 空欄 事実誤認 「すばやく行動」だけで前 後文がなく状況説明がない。	D		
問三 3a 表記	240字以上300字以内で書いて おり、漢字脱字表現の誤りが <b>1種類以 内</b> である。	A	240字以上300字以内で書いてお り、漢字脱字表現の誤りが <b>2種類以上4 種類以内</b> である。	B	240字以上300字以内で書いてお り、漢字脱字表現の誤りが <b>5種類以上</b> あ る。	C	240字以上300字以内 で書いていない。	D		
問三 3b 前者	問二の解答を一般化できている。	A	問二の解答を一般化しようとしているが 表現が不十分である。	B	事実誤認 筋違い 空欄	C				
問三 3c 後者	1 消極的 2 自信のなさ 3 他者への不安感 のいずれかに言及し一般化できている。	A	A未満	B	事実誤認 筋違い 空欄	C				
問三 3d 図表	図表の読み取りが正しくできている。	A	図表の読み取りが正しくできていない箇 所がある。	B	事実誤認 筋違い 全く数値がはいておらず主観である。	C				
5 段 階 評 価	AAA, BAA	5	ABB ABA AAB BAB BBA BBB CAA CAB CBA CBB	4	A=1個あり	3	A=0 評価1以上	2	DDD	1

### 3-7 思考力・判断力・表現力を見取る問題での変容

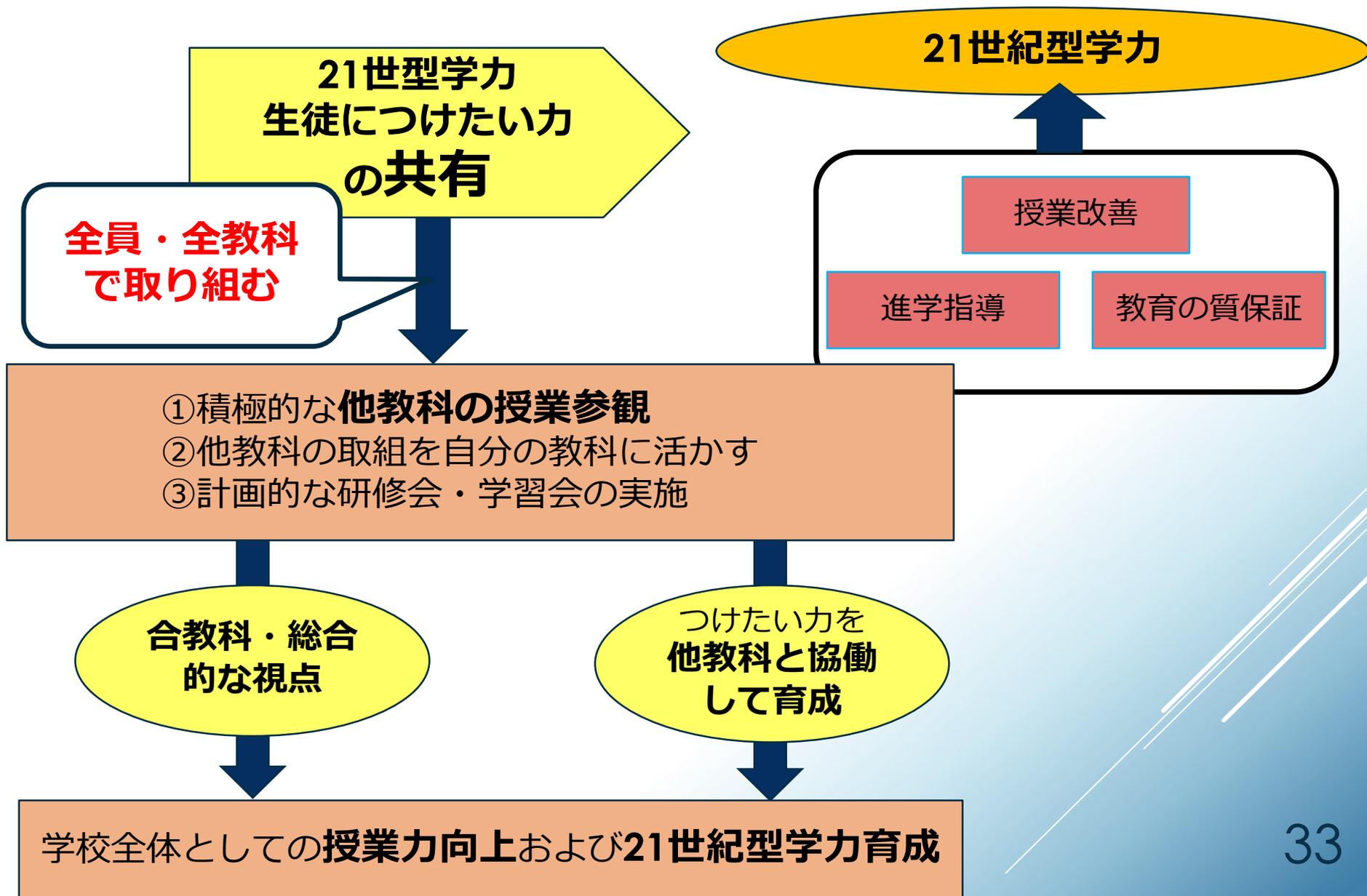
#### 世界史Bの定期考査論述問題による変化



得点率は上昇し、空欄率は低下している事例

- 得点率 ○ 空欄率

### 3-8 新しい時代を見据えた21世紀型学力



席

# 数学科 授業研究会 14:35~15:25

「数学的な思考力・表現力の育成と  
ICT機器の効果的な活用」

討議の柱

M1~M6

高1の授業について

- 1. 学習意欲を喚起する授業展開について
- 2. 深い思考を促す学習課題について

M7・M8

中3・高1の授業について

「中高の学びにつながる授業改善はどのような方法で  
中学・高校の授業双方を改善していくか」

協議の流れ

1. 授業者側
  - ・付箋に記入
  - ・自己紹介
  - ・協議
2. 発表 (139-セッション)
  - ・説明者から先行説明
  - ・他からは代わりばんこに質問
3. 協議
4. 指導主事側 即言・即答

黄：疑問点

赤：改善点

